

2026 年度 鎮西学院大学 学校推薦型選抜「課題作文」

問題 次の文章をよく読み、(1) (2) の問いに答えてください。

世界で、もっとも資源やエネルギーを使っているのは、誰でしょうか。こんなデータがあります。1960 年には、世界で最も豊かな人々 20 パーセントと、最も貧しい人々 20 パーセントの経済格差は、30 対 1 でした。けれども、1990 年には 60 対 1、2002 年には 114 対 1 にまで拡大してきました。そして 2017 年には、世界人口の 1 パーセントの富裕層が、世界の資産のほぼ 48 パーセントを握っていると言われるようになりました。世界のたった 20 パーセントしかいない最も豊かな人々が、世界の資源・エネルギーのなんと 80 パーセントを消費しているのです。象徴的なのが、多国籍企業の急成長（膨張）です。現在、多国籍企業の売上上位 5 社で、最も貧しい国 49 カ国の GDP（国内総生産）の合計 1560 億ドルよりも大きいのです。

もっとわかりやすい例でいうと、2002 年に日本人一人が消費していたエネルギー量は、アフリカの最貧困一人当たりの消費量の 745 年分にも上るのです。

まるで、かつてのヨーロッパの王侯貴族・資本家たちが、便利で快適な生活を送るために、アフリカ大陸から、資源や、奴隷としてたくさんの人々から奪っていたのと、あまり変わりがないように思えます。これらのデータを見るだけでも、僕らは、一人ひとりの生活水準はどうであれ、日本全体でみると、いまだに、世界全体の中で、格差社会のトップに立っていることがわかります。

格差社会のトップに立っている日本を含めた先進国が、「もっと便利で」、「もっと快適な」生活を求めて、たくさんの資源やエネルギーを使い、大量の商品やサービスを創り出し、そして、使わなくなったらすぐに捨ててしまう。そんな大量生産、大量消費、大量廃棄の経済を、維持、どこかで発展させようとしています。

ここで、一度、立ち止まって、「何が本当の幸せな生活なんだろう」と、もう一度、僕らの生活を振り返る時期なのかもしれません。無限に経済成長できると信じている、僕らの生活の在り方や、その考え方を見直すことで、資源やエネルギーの必要以上の消費を抑えることができるはず。結果として、それらのものをめぐる、アフリカなどの紛争を回避したり解決したりすることにつながるでしょう。

まずは、自分たちの生活が、世界全体で見て、どのクラスのものなのかを把握することから、平和をつくる仕事は始まるのです。

〔鬼丸昌也『平和をつくるを仕事にする』、(筑摩書房)〕より抜粋

(1) 上の文章を読んだうえで、あなたが考える「本当の幸せな生活」について、600字以内で述べてください。

(2) (1)で述べた「本当の幸せな生活」を実現するために、4年間の大学生活であなたが取り組んでいきたいことを、できるだけ具体的に600字以内で述べてください。